

平成28年度組織目標 年度末評価（自然環境保全課）

番号	目標項目	目標値等（目標の内容）	達成状況（成果と課題）	達成度	今後の対応 （△・×の項目）
1	巨樹・巨木林、お花畑など貴重な生態系の保全	○巨木の保全に関する協定締結 109本 （内訳） 協定新規分 60本 （H28～H32の5年間で210本を予定） 協定更新分 49本	○新たに20本の巨木の保全協定を締結し、44本の協定を更新した。 ○木之本で予定していた新規の40本については、保全団体の立ち上げに至らず、事業を実施できなかった。	△	木之本については、平成28年10月に開設した森林マッチングセンターなどで地域の地域振興を図る中で、巨樹・巨木の保全事業を進める。
		○植生防護柵設置 900m ※お花畑東側区域の整備完了予定	○9月中に900mの植生防護柵の設置が完了し、既に完成している西側区域と合わせて伊吹山頂お花畑の約2/3の区域の保全ができた。加えて、平成28年度の残予算や入山協力金の活用、民間事業者の協力により、残る1/3の区域についても11月末に植生防護柵の設置が完了。これらにより、山頂お花畑の主要区域約30haを保全する柵の設置が完了した。	◎	
2	侵略的外来水生植物防除対策の推進	○オオバナミズキンバイをはじめとする侵略的外来水生植物の機械駆除後の群落の再生を、巡回・監視により管理可能な状態に導く。 ○住民、企業等多様な主体との連携による侵略的外来水生植物防除を推進する。	○巡回・監視・早期駆除の徹底により、昨年度のような駆除済区域からの大規模再生は許していない。 ○9月補正で予算を大幅に増額（補正後:333百万円）し駆除に取り組んだ結果、約18.5万㎡のオオバナミズキンバイ等を駆除することができたものの、年度末の生育面積は約13万㎡であり、依然として予断を許さない状況。 ○NP0や周辺住民、自治体等との数多くの連携活動を実施した。 ○機械駆除と合わせて開催した見学会には、多くの方々が参加した。	○	

番号	目標項目	目標値等（目標の内容）	達成状況（成果と課題）	達成度	今後の対応（△・×の項目）
3	野生獣被害対策の推進	○ニホンジカの平成22年度の推定生息数47,000～67,000頭の半減をめざし、捕獲数を16,000頭（狩猟および許可による捕獲）とする。	○捕獲が進む冬季（1～2月）の大雪により、出勤日の減少や設置したわなが雪に埋もれてしまうという問題が発生したが、市町への補助や県による捕獲事業により捕獲の拡大を図っている。 【許可捕獲分】 約7,500頭（平成28年12月末現在） ※H29.1～3月許可捕獲頭数および狩猟捕獲頭数 集計中 （捕獲目標16,000頭のうち、狩猟捕獲頭数はH29.7月末に集計予定）	○	
4	生物多様性しが戦略の普及啓発	○生物多様性保全活動評価・認証の試行 ○里山を活用した生態系サービス利用モデルの普及 ○地域住民が主体的に地域の生物多様性を保全することにつながるような自然観察会や学習会を県内各地で35回以上開催する。	○活動のチェックシートは、8企業にヒアリングを行い、修正を行ったが、完成には至っていない。 評価・認証制度は、枠組みの検討に時間を要したため、試行には至っていない。 ○3/2に開催したしが生物多様性大賞表彰式等において、3つのモデルを紹介した。 ○自然観察会等を計35回実施した。	△	○チェックシートは平成29年度に完成する。平成29年度に認証制度を構築し、平成30年度から認証を開始する。 ○平成29年度も引き続き普及に努める。 ○平成29年度も引き続き地域の生物多様性に着目した自然観察会を実施し、生物多様性の保全につなげる。

※「達成度」の欄は、年度末の目標の達成について、

◎ 目標を超えて達成（100%超）、○ 目標どおり達成（100%）、

△ 目標の半ば以上の実績（50%以上）、× 目標の半ば以下の実績（50%未満）

に分類・評価して記入してください。なお、評価するにあたり、カッコ書きの数値により難しい場合は、この数値を参考としながら、各目標の内容に応じた評価を行ってください。